



「お父さん、なんで電気消してんの?」

お店ライトダウン 6/21

わたしたちが使う電気を作り出すときに発生する温室効果ガスの「CO₂(二酸化炭素)」量を少しでも減らすとりくみとして、パルコープの全店で18時から22時の間、支障ない程度に電気を消して営業しました。その日は父の日ということもあってか、親子での来店が多い日でした。



つるみ店では店舗内の電灯の約1/3を消しました。



「電気消しててるからいつも涼しく感じるね」
「電気消してはんねんね...暗くないよ」
「こりや、ええこっちや...」
「自然な感じでいいですね」
「来店された組合さんの声」
「屋間やったら電気いらんね」
この夏、店舗では7/7(火)7夕の夜もライトダウンに取り組みます。



商品検査室だより 5月度

	残留農薬	微生物	食品添加物
新規事前商品	50	259	11
抜取商品	25	218	4
調査品他	5	24	
合計	80	501	15

商品お問い合わせ紹介
『赤たまごいろいろパック』

たまごの白身が濁っているものがありますが、どうですか?

Board of directors report
理事会報告

2009年度 第2回
6月16日

*決算報告 (単位:千円)

①	5月度		累計(4月~5月)			
	実績	計画比%	実績	計画比%		
供給高	4,063,168	97.7	105.4	7,840,860	98.2	104.6
供給剰余金	1,035,809	97.0	103.5	1,996,940	97.4	103.0
福祉剰余金	186	—	—	▲4,925	—	—
事業剰余金	1,122,165	97.0	102.1	2,161,570	97.4	101.9
事業経費	1,181,067	99.1	106.8	2,243,396	98.8	107.0
事業剰余金	▲58,901	—	—	▲81,826	—	—
経常剰余金	▲48,671	—	—	▲67,633	—	—

③⑥⑦の数値は、マイナスの予算・実績で比較ができないために「—」で表しています。
※法改正により、共済が「元受事業」から「受託事業」に変更になりましたので、これまで記載していた「共済剰余金」項目はなくなりました。「受託事業」としての収入は、「④事業剰余金」の中に含まれています。

用語説明

- ①共同購入、店舗の商品利用高
- ②供給高から仕入代金を差し引いた金額
- ③福祉事業での剰余金
- ④供給剰余金・福祉剰余金・利用手数料・共済貢託収入の合計
- ⑤人件費と物件費の合計
- ⑥総事業剰余金から事業経費を差し引いた金額
- ⑦事業剰余金から事業外損益を差し引いた金額

おもに討議、確認した内容

- 5月度供給高は、
・共同購入事業（班・個配）では、供給高予算96.6%、前年比102.4%でした。
・店舗事業は、供給高予算103.5%、前年比124.6%で、直接剰余で黒字になりました。
- 商品に関して、以下確認しました。
・炭酸飲料の共同購入取り扱いについて
・牛乳の新規商品導入について
・商品案内の名称について
- その他、以下の内容を確認しました。
・2009年通常総代会の受け止めと今後のすすめかた
・2010年総代選挙管理委員の選任
・福善寄贈の2009年度以降のすすめかた



ござんじですか? パルコープの安全推進事務局

安全推進事務局は、パルコープの「食の安全」を守るために商品検査、品質管理の業務を行っています。その中で、今回は枚方の新物流センター内に移転した、商品検査室の機能を中心にご紹介します。

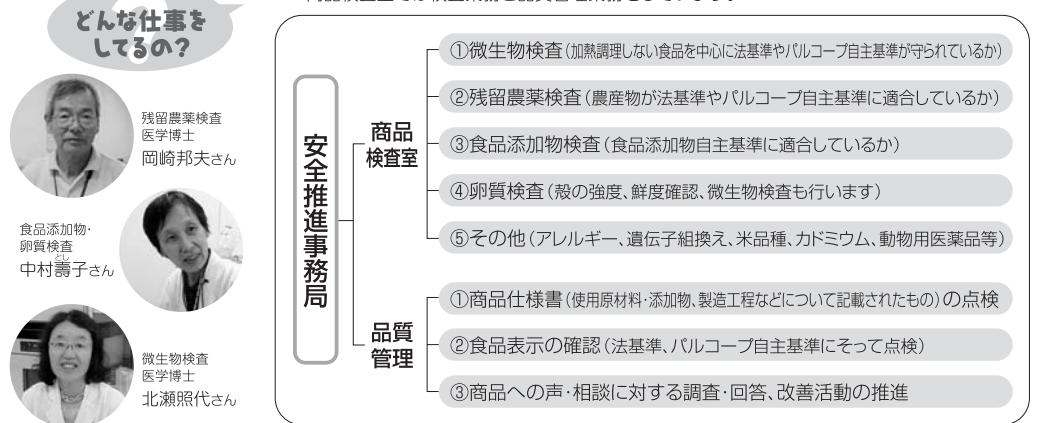
1991年、商品検査室はパルコープの施設第一号として旧都島支所の2階に開設されました。

「食の安全」を求める組合員の声に応え設備・人員を拡大

- 1991年 商品検査室（旧都島支所で）開設
- 1996年 病原性大腸菌O-157検査開始
- 1998年 機能を拡大し城東組合員会館3階に移転
- 2000年 食品添加物検査開始
- 2002年 抗生物質検査開始
- 2003年 残留農薬検査開始（外部委託から内部検査に変更）
- 2009年 枚方新物流センター内に移転



商品検査室では検査業務と品質管理業務をしています。



中国ぎょうざ事件後、品質・安全性の確認がますます必要になり、検査件数は事件以前に比べ大きく増えましたが、これらによってさらに検査件数を上げることが出来ます。



検査機能が
さらに充実

残留農薬検査のスピードアップと件数を増やすため、検査前処理の濃縮機を2台→4台に増やしました。



残留農薬検査機を2台→4台に増やし、従来の農産物だけでなく、08年1月より中国製品を中心とした冷凍食品などの加工品についても引き続き農薬検査を行っています。



物流センター内に設置することで、万が一の商品トラブルの際にも物流センターにある商品を抜き取り、検査することができ事故の拡大防止に役立ちます。

また、新しい検査室の面積は以前の1.6倍になり、職員が行き交うことがむずかしい以前の検査室に比べ、作業の効率が良くなりました。